

自然の中で



理科は、むずかしいから嫌いです

四年前、理科の好き嫌いを調査してみると、このような理由で理科をいやがる児童が一割もいた。理科が好きで教材研究を重ね一生懸命指導してきた私にとっては思いもかけないことだった。

うして理科好きになつたかを考えてみた。いろいろの要因があるが、一番の要因は、子供のころ自然に深く接して育つたことだと思われる。

を相手にして成長した。春は、せりな
ずなをつみ、レンゲやシロソメ草の花
で遊び、夏は、川でザッコをすくい、
秋は、柿の実をとり、栗をひろい、冬
は、そりすべりと、自然にひたつて樂

組んでいると思っていたのである。しかし、教師や一部の児童にとつては楽しい授業ではあつたが、理論的にむずかしすぎて、ついてこれない児童にとつては苦痛な授業だったわけである。

うさぎを飼い、畑をつくっては芋や豆をつくり野菜をつくった。



楽しい自然散歩

このような経験を通して、自然のすばらしさ、自然の恵みを知り、自然への認識を深めることができた。自然との深いかかわり合いこそが理科好きへ近道であり、自然是、すばらしい教師であることがわかった。

では、今までの私の理科の授業はどうだったであろうか。理論を優先するため、教室で教師の準備した自然の一部を与えていたにすぎず、ほんとうの自然を与えていなかつたことに気づいた。それ以後、自然との接触をできるかぎり多くするよう心がけて授業にのぞむように努力してきた。

現在、二年生を担任しているが、機会をもと自然にこなこませるよ

よ。水の所で何かしているよ。」

「先生、シロツメ草の編み方教えて。」「先生、小さなタニシをみつけたよ。

教室で育ててみようよ。」

きかけいろいろなことを吸収していく。ときには、浅学非才の私にはわからない問題も出てくる。教師にとつて

もまた研修の良い機会でもある。
「アーチ、楽しかった。この続き、家
へ帰つて、やつて、つづけて。

「帰ってきてからもやってみよう」と満足そうな児童の顔をみていると自然の力の偉大さをしみじみと知らされ、自然の中での教育のたいせつさを再確認させられた。

こんな楽しい散歩ができるのも学校のまわりに人手のはいらない自然があるからである。しかし、我が校のまわりにも都市化の波が急速に押し寄せ、一年ごとに自然が減ってきてる。近代的な生活環境も必要であるが、人手の方を共存共栄させる妙策はないものだろうか。

(郡山市立大成小学校教諭)